

寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の“いま”を伝える情報誌
vol.14

編集企画

高齢化社会に向けた
社寺のバリアフリーの取り組み

活性人

中外日報社 代表取締役社長

形山 俊彦

特別対談企画

公益財団法人徳川記念財団 理事

徳川 家広

×

和宗総本山四天王寺 執事

山岡 武明

和宗総本山四天王寺 総務部参詣課信徒係主任

瀧藤 康教

マンション



商業施設



賃貸住宅
「シャームゾン」



積水ハウスの 土地活用

オフィス



高齢者向け
住宅



クリニック



土地を活かす。地域が活きる。

土地活用とは、土地の価値を地域に活かすこと。積水ハウスは、住宅のリーディングカンパニーとして培ってきた総合力で土地の可能性を引き出してきました。入居者の多様なニーズに対応する賃貸住宅「シャームゾン」や高級感あふれる中高層マンション、時代が求める高齢者向け住宅など、地域貢献につながる土地活用を積水ハウスがご提案します。



積水ハウス株式会社 大阪特建支店

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-93 梅田スカイビルガーデンシックス4F



特建くん
©積水ハウス2005

土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。



0120-131-470

大阪特建支店

検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。
ホームページからもお申し込みいただけます。



積水ハウスの賃貸住宅
「シャームゾン」総合カタログ



積水ハウス大阪特建支店 実例集
「Best Solutions」

特別対談企画

02 徳川家広氏×四天王寺 鼎談

公益財団法人徳川記念財団 理事

徳川家広



和宗総本山四天王寺 執事

和宗総本山四天王寺
総務部参詣課信徒係主任

山岡武明 瀧藤康教

08 編集企画

高齢化社会に備えて
～ 社寺のバリアフリーを考える ～

16 活性人

株式会社中外日報社 代表取締役社長・主筆 営業統括

形山俊彦

12

全国寺社イベント

浄土真宗本願寺派（西本願寺）
「スクール・ナーランダ」

13

職人技

京都 有限会社 矢尾治

14

チャレンジ特集

沙沙貴神社

18

SCOPE

「社寺巡礼の旅」
平成 28 年度観光庁採択事業

22

うちのお宝

成就寺 木造金剛力士立像
平清水八幡宮 木造獅子狛犬

24

集う、育む 体験レポート

葛木御歳神社『宮司による神道の講座
かんながらのみちのお話』

25

寺社お役立ちデータ室

全国寺社数ランキング

26

野田博明 風まかせ 14

「かぐや姫はなぜやってきたのか」

28

トレンド Now

阿蘇神社の復興を支援する「蛭丸サイダー」販売
から 8 ヶ月間の売り上げの一部を同神社に奉納

29

特別連載③

『宿坊創生プロジェクト』第 1 弾 いよいよ宿泊開始
和空下寺町記者発表

26

四季巡り 華景色⑤

岩船寺の紫陽花



特別対談企画

徳川家広氏×四天王寺 鼎談

公益財団法人徳川記念財団
理事

和宗総本山四天王寺
執事

和宗総本山四天王寺
総務部参詣課信徒係主任

とくがわ いえひろ
徳川家広

やまおか ぶみょう
山岡武明

たきとう こうきょう
瀧藤康教



各界の著名人の方と寺社の方をお招きし広い視野で寺社の活性化について語り合う特別対談企画。

今回は、徳川記念財団理事で著述家の徳川家広氏と、2022年に「聖徳太子千四百年御聖忌」を迎える四天王寺執事の山岡武明氏と同寺総務部参詣課信徒係主任の瀧藤康教氏との対談が実現しました。

仏教を中心とした徳川家と四天王寺の関係性や、現代の日本社会における宗教者の役割などについて語り合っていました。

司会・構成：吉田 耀子



「混乱した日本の中で、何らかの答えを出せるのは仏教だけなのです」

徳川 家広

徳川記念財団理事。1965（昭和40）年2月7日生まれ。父・徳川恒孝（徳川宗家18代当主、元日本郵船副社長、徳川記念財団理事長）の仕事の関係で、小学校1年から5年までをアメリカで過ごす。学習院高等科を経て、慶応義塾大学経済学部に進学。卒業後、米ミシガン大学大学院で経済学修士号を取得。国連食糧農業機関FAOローマ本部、ハノイ支部で勤務後、コロンビア大学で政治学修士号取得。その後、フリーの翻訳家、著述家に。

仏教を国造りの礎とした 聖徳太子と江戸幕府

司会 江戸時代、徳川家は世界に類を見ない長期安定政権を実現し、現代日本の礎を築かれました。また、四天王寺は聖徳太子による創建以来、仏教の教えの精髓を脈々と継承しておられます。まず、徳川家と四天王寺の関係について、お話をお聞かせください。

徳川家広（以下、徳川） 徳川家はもともと仏教信仰が非常に篤い家で、三河の山村にやって来た漂泊の僧が、土地の豪族である松平家の娘婿になったのが起源といわれています。その後、松平一門からは浄土宗の高僧も出ていますし、家康公の旗印も、「厭離穢土欣求浄土」と書かれた大変仏教色の強いものでした。

また、江戸幕府は社寺法度を作つて、仏教各派の本山や各地の大社と協約を交わし、それぞれが幕府と同格の重みを持つていることを認めています。このため、江戸時代に入ると、室町・戦国時代のように「宗教が原因で揉める」ということはなくなりしました。江戸幕府は仏教を優遇し、その政治哲学にも、仏教の慈悲の精神が色濃く反映されています。その意味で、仏教による国造りを目指した聖徳太子ゆかりの四天王寺とは浅からぬ縁があると感じております。

山岡武明（以下、山岡） 四天王寺も建立

以来1400年間続いています。が、度重なる災害や戦争によって倒壊や焼失を繰り返しました。今、重要文化財に指定されている建物のほとんどは、徳川二代将軍秀忠

公の時代に建てられたものです。四天王寺だけでなく、戦乱で荒廃した大阪中の神社仏閣が、徳川家からの寄進によって建て直されたと伺っています。

今回、家広さんにぜひ伺いたいのは、徳川家の実像を世の中に伝えるために、どのような努力をされているかということ。我々は四天王寺の僧侶として、聖徳太子の教えをお伝えしようと日々がんばっているのですが、今は情報化社会ですから、よくも悪くも聖徳太子についての情報が氾濫しています。それに比べれば、僕らが発信する情報量などたかが知れている。「伝える」という活動がやりにくくなっているのが本音です。

我々は、聖徳太子の歴史を後世に伝える使命を負っている。それは徳川家にも共通するところがあり、家広さんにも、人生を賭けて伝えたい徳川の姿、知られざる徳川の姿、というものがあろうと思うのです。それを伝えるために、どのような活動をされているのでしょうか。



東照大権現像（公益財団法人 徳川記念財団蔵）

徳川 今年中に、少なくとも2冊は本を書く予定です。1つは関ヶ原の戦いについて、もう1つは明治維新以降の徳川家の歴史についての本です。両方ともいわば「消された歴史」であり、特に関ヶ原に関しては、巷間伝わっていることが、実際の意味合いとはかけ離れているように思えることも多い。

それは、徳川家の歴史についても同様で、江戸時代と明治以降の見方については大変な誤解がある。たとえば、「江戸時代には平和が長く続いた。戦国時代を勝ち抜いたチャンピオンが決まったから平和になったのだ」という、猿山のボスの権力争いのような解釈がまかり通っているわけです。しかし実際には、江戸時代にも戦争を望む世論はあった。江戸幕府はそれを抑え込みながら、綱渡りのような平和を維持していたわけです。

瀧藤康教（以下、瀧藤） やはり、小説やドラマで流布されている通説には、事実とちがうものも多いでしょうね。

「口先だけの人間には 誰もついて来ない。 人々の悩みを 解決することが先決です」

山岡 武明

役職：和宗総本山四天王寺 執事・総務部参詣課 課長。勝鬘院 愛染堂 住職。
和宗仏教青年連盟 代表。全日本仏教青年会 副理事。職歴：和宗総本山四天王寺



徳川 時代劇や落語の中の「江戸時代」は、「隠居や熊さん八つつあんのようないい人ばかり」のハッピーな世界です。しかし、実際には当時の日本も、今の日本とあまり変わらない社会でした。江戸時代はエデンの園のように平和だったが、ペリー来航で西洋の近代文明に目覚め、明治維新で近代国家の仲間入りをした——というのが通説ですが、明治維新というのはむしろ、豊臣時代への先祖返りなんでしょうね。

1615(元和元)年は「元和偃武」と申しまして、徳川家が豊臣家を滅ぼして諸法度を定め、「これで日本を平和にします」と公約をした年です。当時の日本は、秀吉の二度の朝鮮出兵によって疲弊し、いつまた戦乱の世に逆戻りするかわからない状態でした。そこで、江戸幕府は諸法度を次々に発布して社会を安定させ、国民が安心して暮らせるようにしたわけです。戦国時代に出現した「好戦的な日本」を、徳川幕府は必死に抑え込んでいた。ところが、明治維新以降、日本は「戦争が好きで国」に先祖返りしてしまいました。その結果、日本は戦争でポロポロになり、終戦を迎えた。この時、帝国議会で日本国憲法を採択したのが、最後の貴族院議長を務めた私の曾祖父です。つまり、今の憲法は、徳川時代以降の日本史の伝統を踏まえているわけです。

山岡 日本人は今も昔もそれほど変わっ

ていない、という点にはとても共感しますね。聖徳太子が定めた十七条憲法をよく読んでみると、とても面白いことが書いてあります。「上の者は下の者の面倒をきちんとみなさい」「他人の悪口を言わないようにみなさい」「出張中の同僚の仕事ぐらい、他の職員もわかるようにしておきなさい」など、今読んでも的を射たことが書かれているんですね。聖徳太子の時代も、豪族たちが好き勝手をして秩序が乱れた時代です。若くして摂政となった聖徳太子は、外国の書に学んで法律を作り、平和な日本の礎を築こうとされた。その意味では、江戸幕府に大変近いものがあります。

瀧藤 聖徳太子は四天王寺の建立にあたって、「敬田院」「施薬院」「療病院」「悲田院」からなる「四箇院」というのを作ったんですね。今の学校にあたる敬田院で教育を行い、施薬院や療病院だけが人や病人の治療に力を注ぎ、老人や身寄りのない方を養う悲田院も作っています。この聖徳太子の遺志を引き継ぎ、四天王寺では今も「悲田院」という名の社会福祉施設を21件ほど運営しています。学校法人、医療法人、福祉法人が三位一体となつて、四箇院を作った聖徳太子の精神を引き継いでいるわけです。

山岡 なぜ、聖徳太子が四箇院を作ったかという点、仏教のお慈悲を礎とした国造りをするためなんですね。仏像を安置



四天王寺／伽藍

して「拝みなさい。ご利益がありますよ」というだけでは、人々に信用してもらえない。そこで、まず四箇院を作り、人々が切実に求めていたものを提供したわけです。口先だけの人間には誰もついて来ない。まずは人々の悩みを解決することが先決だった。四箇院を体験してもらえば、「これが仏教のお慈悲というものなのか。聖徳太子はそれを実践されているんだな」ということがリアルに伝わります。お慈悲の勉強会を開いても、お慈悲とは何かを理解することはできない。それはいつの時代も同じで、本や師匠から仏教の教えを学ぶことはできても、その教えをちゃんと実践できているか、問われます。後ろめたい気持ちになることもありません。

被災地の復興支援や社会貢献活動を



「どうしたら人から慕われ、 目標にされる人間になれるのか。 日々、自問自答しています」

瀧藤 康教

役職：和宗総本山四天王寺総務部参詣課信徒係 主任。光徳山瑞雲寺真光院 副住職。和宗仏教青年連盟 理事。職歴：学校法人四天王寺学園。四天王寺福祉事業団 社会福祉研修センター。和宗総本山四天王寺

している若い僧侶は少なくないのですが、売名行為になってもいけないので、なかなか人目に触れる機会がない。一方で、一部の宗教者の悪行がニュースになると、そういう面だけが目立ってしまう。それが悩ましいところですよ。

徳川 戦後日本はなんだかんと言っても、国民の面倒をよく見る国だったんですね。教会もお坊さんもないような国だったのが、平成に入ってガタガタになってしまった。私は、今こそ伝統宗教の力と蓄積が必要になってきていると思うのです。戦後の高度成長も終わって格差が広がり、未来に希望を持ってない人が増えている。その意味では、聖徳太子が活躍なさった時代に近づいているのかもしれない。四天王寺さんは、聖徳太子以来の蓄積があるわけですから、街に出て若い人たちと話をすれば、とても響くものがあると思います。

瀧藤 僕らが先陣を切って、出会った人たちに話をしていく。それが、遠回りなように見えて実は一番の近道なのかもしれない、ということでしょうか。

徳川 そうです。ただ、お話をなさる以上に、「人の話を聞く」ことが大事だと思います。というのも、今は、誰にも話を聞いてもらえない人が多いですね。10人の話を聞けば、人間の悩みは古代から全く変わっていない、ということに気づかれると

思います。

国の制度がガタガタと変わっていく中で、お寺さんの仕事は大変重要になりつつあります。10年後には、「人生は修行だ」と思わなければ耐えられないほど大変な時代が来る。世の中の混乱に対応できるだけの深みを持ち、何がしかの答えを出せるのは、日本においては仏教だけなんです。

仏教のもうひとつの強みは「国際性」です。近年、アジア諸国は急速な経済成長を遂げていますが、日本とは仏教という共通項で結ばれた国も多い。海外向けに「日本とはどういう国か」を説明する上で、仏教が果たすべき役割は大きいと思いますね。

山岡 四天王寺には、海外からの観光客もたくさん来られます。とりあえず、英語で礼儀作法や御堂などを解説する説明版は作ったのですが、外国の方にも日本の文化とお寺を体感してもらえないような工夫ができないか、と考えているところです。

徳川 英語版だけでなく、中国語版や韓国語版もあるといいですね。聖徳太子のような傑出した哲人政治家は、人類史上を見渡しても100人はいないと思います。そういう人が古代の日本にいた、ということだけを伝えるだけでも感動があるのでいいのでしょうか。この歳になってようやくわかってきたのですが、「生きている間、

一度もいい人に会わないまま死んでしまうかもしれない」という人が、今は本当に多いんですね。

これからの日本社会では 宗教者の役割が重要になる

瀧藤 実は先日、境内で、年配の男性から「お坊さん、お坊さん」と声をかけられたんです。

「ここは聖徳太子さんのお寺やろう。弘法大師や親鸞上人、法然上人もおる。今のお坊さんはどうや。有名な人はおるか。銅像になるような人や、教科書に載るような人はおらんやろ」

そう言われて、何も言い返せなかったんですね。自分も人から慕われ、目標にされるような人間になりたい。でも、自分が生きている間に果たしてなれるのか。どうしたらそんな人間になれるのだろう、と、つくづく考えさせられました。

徳川 江戸時代には天台僧正や隠元禪師など、有名なお坊さんが何人も出ましたが、ある時期からパタッといなくなりました。名僧の系譜が途絶えたのには理由があります。平和で安定した時代が続く、仏教の教えが隅々まで浸透して、需要が減ってしまったんですね。ところが明治以降、世の中が乱れてくると、ちよつと有名な禅僧が出てきたりする。世の中が乱れば、宗教にすがる人も増え、突出した宗教家が登場します。今後、世の中



は放っておいても悪くなりますから、宗教家が求められる機会は増えると思います。

山岡 求められたときにしっかりと活動できるよう、修行して準備しておくことが大事だということですね。今、宗教者として頼られていないからといって、腐ってはいけません。

徳川 日本の経済成長がピークを迎えた1980年代にも、悲しみの中で生きていく人は大勢いたわけです。でも、今はもっとわかりやすいかたちで、さまざまな問題が吹き出している。たとえば、IT技術に奪われた仕事は二度と戻ってきませんし、働きがいのある仕事は減る一方です。その分、私たちは助け合って生きていかなければならない。ある意味、昔の日本に近づいているといってもいいかもしれません。

山岡 たしかに、「お寺が求められている」と感じる機会は増えています。最近、役所から、「境内で子供たち向けのイベントを開きたい」と依頼されることが多いんですね。昔は宗教色がつくのを嫌っていた役所が、お寺に寄って来てくれるようになったんです。今は、子供たちに心の豊かさや日本人としての誇りを学ばせたい、と願う人たちが増えている。歴史と伝統を求めてお寺に来られる方もいれば、スピリチュアルな癒しを求めて来られる方もいて、確実に仏教ブームが来ていると感じます。このチャンスを活かし、伝統の上で

新しい試みをするための土台作りをやっているところですよ。「救われました」「ありがとう」という声はしょっちゅう聞きますので、それを次の世代にも体験してもらえたら、と思いますね。

徳川 そういう声は、具体的にはどのような状況で聞かれるのですか。

瀧藤 お寺にはいろいろな電話がかかってくるんですが、仏事相談だけでなく悩み事の相談も多いんですね。なかには、「今すぐ死にたい」「私はこれからどうして生きていけばいいんだ」と言われる方もいます。誰かに悩みを聞いて欲しい。でも、誰でもいいわけではない。在家の職員ではなくお坊さんに話を聞いてもらいたい、それだけで安心するんだ、と言うんですね。我々も電話をとったからには、この人たちがどうにかして安心させられるような存在でなければならぬ。時には1時間以上、延々と話を聞くこともあります。「どうですか、すっきりしましたか」と聞くと、「安心しました。でも、明日もかけるかもしれないですね」と言う人もいます。それでも、安心していただけて、最後に「ありがとう」と言っていただけということは、仏教に帰依してきた者として本当に大切なことだな、と感じます。

山岡 悩み事を繰り返し聞いて、ちょっとずついい方に向かってきたかと思うと「死にたい」と言ったりするので、難しいところ

ではあるんです。でも、そうやって耳を傾けるうちに、「瞬間、自分の親の話を聞くのと同じ気持ちで他人にも接する、という心境になってくる。修行ですよ。」

お坊さんは少なからず、そういう気持ちを持つている。その背中をたくさんの人に見てもらえるように、世の中に出て活動しなければならぬ。でも、僕らがそんな気持ちでいるということは、世間一般にはあまり知られていない。今後どうしたらいいのか、という思いもあるんです。

徳川 それは、とても嬉しいお話です。既成宗教の危機はどの国でも言われていますが、今の日本は無慈悲な社会になりつつあるから、慈悲の教えが広がる余地は大変に大きいと思います。お寺の数がここまですべて増えたのは、江戸時代の寺請け制度において、戸籍管理という公務を担っていたからなんですね。

一方、今は政教分離の時代ですから、お寺が苦しいのは当然なんです。その中で、聖徳太子以来の伝統を引き継ぎ、それを広げていこうとしておられるのは素晴らしいことだと思います。

先人の思いを後世に引き継ぎ 協働して発信していきたい

司会 お話を伺っていて、今後は仏教の教えを社会の中で実践していくことがますます重要になる、と感じました。その点で、徳川さんと四天王寺さんは認識を

共有されていると思います。今後、何らかの形で協働していられるお考えはありますか。

山岡 今の日本を築いたターニングポイントの二つに聖徳太子の時代があり、江戸時代がある。共通するのは、平和を希求した点にあると思うのです。徳川家の名を背負い、後世に引き継ぐ使命を持った方がどのような発言をされるのか、多くの人は興味を掻き立てられると思います。その意味では大変な発信力をお持ちですから、今後いろいろな発信を通じて影響力を発揮する存在になっていただきたいですね。ぜひ、僕らの心を動かしてリードする存在になってもらいたいと思います。

徳川 聖徳太子は貧しい人、苦しむ人今まで目配りした政治を行いました。その精神は、平安時代から室町・戦国時代に至るまで休眠状態だった。ところが江戸幕府の時代になると、再び国民のための政治を目指すようになります。聖徳太子の精神が、江戸時代に復活するわけです。では、「徳川家康は聖徳太子をどこまで意識していたのか」という点を、歴史的事実として解明したい。それと同時に、江戸時代の大坂はきわめて大きな重要な町だったので、徳川幕府は四天王寺をどう位置づけていたのかも調べてみたいと思います。聖徳太子と徳川家康は、日本史の中で同じことを目指していた。それを、四天王寺さんと協働して発信できたらうれしいですね。

司会 最後に、全国寺社観光協会への期待をお聞かせください。

徳川 東京には、徳川家ゆかりの増上寺と寛永寺があります。両寺とも空襲で焼失してしまったので、戦前の姿をビジュアル化するお手伝いをしていただけるとありがたいですね。増上寺は古い写真がかなり残っているの、CGを使えば完全復元が可能です。その点でお力添えをいただければ、と思います。

山岡 まずは、今回の対談の機会を作ってください、ありがとうございます。今は各寺院のやりくりが大変になり、寺院同士つながりも薄くなっています。全国寺社観光協会のネットワークを活かし、今後も「つなぎ役」として活躍していただきたいと思っています。

瀧藤 全国寺社観光協会の監修で、大阪の下寺町に「和空」という宿坊ができた時は本当に驚きました。和空では、坐禅や法話、写経など、仏教を知らない人にも仏教を体験していただける仕組みをたくさん作っていただいています。そこから会話が生まれ、再び地域全体が仲よくなる時代がもう一度来るかもしれない。これからも、人とお寺、お寺同士をつなぐ、和空のような場を作っていただければと思います。

司会 ありがとうございます。

公益財団法人 徳川記念財団

徳川記念財団は、徳川宗家(将軍家・公爵家)に伝来した歴史的・美術的・学術的重要品を広く学術研究ならびに社会教育上の公益に供し、日本近世並びに近代の研究の発展に寄与することを目的として、2003(平成15)年4月に徳川宗家18代当主徳川恒孝が設立し、2011(平成23)年4月に公益財団法人に認定された。主な事業は下記の通り。

- 1.徳川宗家伝来資料の保存管理修復・関連資料収集。
- 2.久能山東照宮博物館・日光山輪王寺宝物殿における常設展示(自主企画)。全国各地での関連展覧会の共催。他館への特別協力や出品協力などの展示活動。図録の編集・刊行など。
- 3.所蔵資料の調査・研究、研究機関との共同調査・研究。
- 4.日本近世史研究の業績への表彰や奨励を目的とした「徳川賞」「徳川奨励賞」を選定、授与。
- 5.古文書講座の開催、児童・生徒を対象とした作文コンクールの実施、歴史講座等への講師派遣、年2回の会報発行など。

当財団の事業活動は賛助会員の皆様からのご支援によって支えられております。さらなる歴史・文化の継承には皆様からのご支援が必要です。ご検討いただければ幸いです。賛助会員・ご寄附のお申込み方法など詳細は下記までお問い合わせください。

〒151-0064 東京都渋谷区上原2-35-5-203
TEL:03-5790-1110/2620
<http://www.tokugawa.ne.jp> jimukyoku@tokugawa.ne.jp

和宗総本山 四天王寺

四天王寺は今から1400年以上前、593(推古天皇元)年に建立された。『日本書紀』の伝えるところでは、物部守屋と蘇我馬子の合戦の折、崇仏派の蘇我氏について聖徳太子が形勢の不利を打開するために、自ら四天王像を彫り「もし、この戦いに勝利したら、四天王を安置する寺院を建立しこの世の全ての人々を救済する」と誓願され、勝利の後その誓いを果たすために、建立したと伝えている。

2022年には聖徳太子の没後1400年にあたる「御聖忌(ごせいぎ)」を迎える。四天王寺では「御聖忌」を迎えるにあたって中心伽藍の改修工事を始め、聖霊院の増改築や、建造物・境内一円の改修・整備が行われていて、またこれを善きご縁として多くの人々に四天王寺を身近に感じていただき、太子のご遺徳を後世に伝えることを目的とした奉賛会が結成されている。



金堂

〒543-0051 大阪市天王寺区四天王寺1丁目11番18号
TEL:06-6771-0066
<http://www.shitennoji.or.jp/>

高齢化社会に備えて ～ 社寺のバリアフリーを考える ～

社寺において高齢者の訪問数が増加する昨今、設備のバリアフリー化の必要性も高まりつつある。

今回の編集企画では、社寺の環境整備の一つとして

「バリアフリー化」について考えてみたい。

ハード面におけるバリアフリーは、文化財・宗教施設という面から難しいという声もあるが、

導入にむけた共通認識の持ち方や、実際にバリアフリーを進めている社寺の事例をご紹介します。

〈インタビュー〉中央大学研究開発機構 教授
国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会 委員長 秋山哲男さん

魅力ある社寺 そして街づくりのために バリアフリー化を

ユニバーサルデザインやバリアフリーといった視点から誰もが暮らしやすく、移動しやすい街づくりを進めているのが、中央大学研究開発機構の秋山哲男教授。今回は秋山教授に社会におけるバリアフリーの必要性、また、社寺で取り組んでいる事例やバリアフリーを進めるための具体的な方法、今後の課題などをお聞きした。

バリアフリーという視点は 動きやすさの確保の手段

秋山教授は移動そのものや動きやすさを表す『モビリティ』という概念に主眼を置き、おもに障害者のモビリティ確保に関する研究を行っている。「ユニバーサルデザインやバリアフリーという視点は、モビリティを確保するためのツール。しかもそれは駅舎

や車両といった限られた空間でなく、移動困難者が動きやすいような街にすることが肝要。モビリティ確保はイコール街づくりなのです」と秋山教授。

こうした高齢者や障害者といった移動困難者が移動しやすい公共交通機関や建築物、道路などのバリアフリー化を総合的に進めるための良い評価事例を紹介する一ツが、秋山教授が委員長を務める『国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰』だ。同委員会では毎年、バリアフリー化に貢献した個人や団体を表彰。10回目の今年は仙台市交通局や全日空運輸株式会社などが受賞した。

国宝や重要文化財は 仮設の設備や人的支援で

この大臣表彰では、第4回に

京都の清水寺が「重要文化財を活かした社寺地のバリアフリー化（受賞タイトル）で受賞。清水寺では国宝・重要文化財が建ち並んでおり、改修するための制約が多い上、高低差の大きい傾斜地に建つなどバリアフリー化には厳しい条件がそろっていた。しかし、文化財の確保や景観への配慮もしつつ、車いす用の舗装や参拝路のスロープ整備などを行って境内を一周できる段差のない参拝ルートを確認。また、参拝ルート上に3つの多機能トイレも設置したほか、拝観入口近くまで車でアプローチできるようにした。

「このほか、私の調査では重要文化財や国宝がある場合、形を変えることなく仮設のスロープを付けるなどの工夫をしている社寺がありました。また、地面が玉砂利だった場合は、『車いすを押します』といった人的支援でバリアを解消しているケースもありました」と秋山教授は言う。半面、まったくバリアフリー化が進んでいないケース

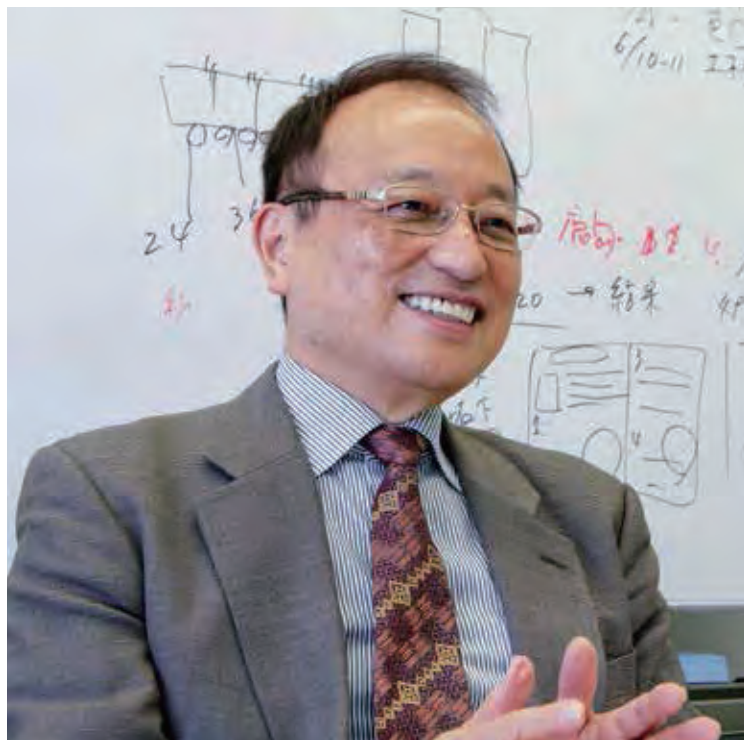
もあり、「社寺は二極化になって
いる」(秋山教授)という。

重要なポイントは 幅と段差とトイレ

実際に社寺でバリアフリー化を進める場合、どのようなハードルがあるのか。秋山教授は「3つの関門があります」と指摘する。1つ目は「国宝、もしくは歴史的建造物かどうか」。文化財の場合は許可を得たり、形を

崩さないように整備する必要が出てくる。2つ目が「地形」。傾斜地で段差が多かったりするとその分、整備も大変になる。3つ目が「公私」。社寺の敷地が個人の所有の場合、所有者の考えによって左右されるからだ。「これらの問題を丁寧に解きほぐし、どこまで整備可能なのかを調査して、方法論を考えていくことが第一歩」と秋山教授はアドバイスする。

それでは具体的には何から手



中央大学研究開発機構 秋山哲男教授

をつけなければならないのか。秋山教授は「車いすの人がお参りしてトイレを利用することを基本とする」と分かりやすいのでは」とアドバイス。その際の前提となるのが、「幅」と「段差」だという。幅は車いすが通れる90センチメートルは確保したい。また、段差はスロープやエレベーターなどを設置する。トイレは、車いすだけでなく、ベビーカー、オストメイト(人工肛門・膀胱保所有者)など多様な人が使えるよう配慮する必要がある。「幅と段差とトイレ。これがポイントです。最低限、これがそろえばある程度のバリアフリーをクリアできるのでは」と秋山教授。また、「前出の社寺のケースのように設備がない分、人的に支援するというのも1つの方法。そうすることで、バリアフリーの幅も広がります」という。

一方、こうした整備を進める前に基本構想を練ることがポイントとなる。その際、「社寺単独で計画を進めるのではなく、例えば駅から社寺までのルートなど、周辺のバリアフリー化を考



※イメージ

える必要があります。このため、行政などと連携しながら計画を進めることが大切。それによって、社寺も生きるし、街も生きるようになります」と秋山教授は助言する。

古い歴史と新しい考え方、 二者の融合で魅力を向上

魅力ある社寺、そして魅力ある街づくりを進める上で、だれもが利用しやすい、移動しやすい環境を整えることは重要なファクターだ。とはいっても、社寺のような歴史的建造物は街の顔として重要な存在感を持っており、とくに国宝などの場合

は、形を変えることなくバリアフリー化することが求められる。「例えば、チェコ共和国のプラハでは、中世の古い城と近代のキュービズムの建築物が共存し、街としての魅力を高めている。つまり、古い歴史と新しい考え方のどこで折り合いをつけるか。バリアフリーだけでなく、人々の生きざまをどうやって変えていけるのか。それが私たちの目指すところです」

秋山教授は言う。「今後、高齢化がますます進んでいく中で参拝客を確保するために、ぜひ、折り合いをつけながらバリアフリー化を進めてほしいですね」

<関連サイト>

- 中央大学研究開発機構
<http://www.chuo-u.ac.jp/research/rdi/>
- 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/sosei_barrierfree_tk_000001.html

続いて、いち早くバリアフリーに取り組んでいる宝塚市・中山寺などの事例をご紹介します。

「パーソナルバリアフリー基準」を 独自で開発し、障害者をサポート

本場に必要情報とは
利用者の視点で情報収集

観光地、伊勢志摩の鳥羽市にあるNPO法人「伊勢志摩バリアフリーセンター」。このNPO法人は、バリアフリーについての啓蒙活動を行いつつ、バリアフリー対応が必要な障害者や高齢者に対して伊勢・鳥羽・志摩など三重県の観光に関してさまざまな活動を行っている。その活動が認められ「第1回国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰」を受賞した。彼らが目指すのは「日本一のバリアフリー観光地づくり」。そして合言葉は「行けるところ、より、行きたいところへ」だ。

さまざまな活動のなかで、第1にあげられるのは情報収集だ。宿泊施設や観光施設のバリアフリー環境に関する正確な情報を把握するため、伊勢志摩地域内の障害者を含む「専門員」と呼ばれる調査スタッフ

を組織。彼らが実際に調査対象の施設へ出向き、体が不自由な観光客の視点で調査を行う。例えば入り口の幅、段差の高さ、トイレの大きさ、ベッドの高さなどを、同法人が独自に開発した「パーソナルバリアフリー基準」に基づいて細かく調べ、その結果を窓口やホームページで公開している。

この「パーソナルバリアフリー基準」とは、一般的なバリアフリー情報である「段差の有無」だけを提供するのはなく、その施設の「バリア」を詳細に調べ上げてありのまま紹介するのが特徴だ。例えば同じ車いすの旅行者でも、個人行動なのか、誰かと一緒なのか、若い人なのか高齢者なのかなどの状況によって、どういったことがバリアとなるのかは千差

万別。旅行者それぞれのバリアを理解するために、幅広く詳細な情報を集めている。

第2の活動として、「パーソナルバリアフリー基準」による調査情報を基にして、旅行者の体の状態や希望に沿った宿泊施設や観光施設の紹介、旅行アドバイスを、障害者を含むスタッフが発行している。単にバリアフリーの状況を伝えるだけでなく、「段差はあるけど景色が素晴らしい宿泊施設」といったような、バリアを超えた先にある「楽しみ」「喜び」を結び付けて提供するための基準だ。



「伊勢おもてなしヘルパー」のボランティアが、車いすの介助をしている

「行きたい」を実現する
サポート活動も充実

そして第3の活動は、現地でのサポート体制の確立。例えば伊勢神宮の玉砂利の参道では、タイヤの太い参拝専用の車いすを借りることができるが、介助が必要のため、ボランティアがその役割を果たす。同センターでは伊勢市や観光協会などと連携して育成した「伊勢おもてなしヘルパー」による有償のサポート体制を確立。内宮の参道の車いす介助の他、希望者には、ご正宮前にある25段の階段を、車いすごと上げるサポートも行う。

このような活動は、障害者や高齢者の助けとなるだけでなく、

く、施設側にとっても新たな顧客獲得となる。すでに「パーソナルバリアフリー基準」は全国各地のバリアフリーツアーセンターでも利用されているようだが、全国各地で同センターと同様の活動ができれば、社寺にとっても観光面での活性化につながるのは間違いなさそうだ

CASE② 大本山 中山寺

妊婦や高齢者、ベビーカーなど 多彩な参拝者に配慮した改修計画

参拝者の特性を考える
バリアフリーへの姿勢

今から1400年前に聖徳太子により開山、日本初の観音霊場とされる中山寺。明治天皇の出生時に安産祈願した

ことから安産祈願の霊場として広く知られており、安産祈願の腹帯を求めて全国から参拝者が訪れている。その中山寺はまた、バリアフリーに対する積極的な取り組みでも知られている。その取り組みについて中山寺の

NPO法人
伊勢志摩バリアフリーツアーセンター

〒517-0011
三重県鳥羽市鳥羽一丁目2383-13
鳥羽一番街1F
TEL:0599-21-0550
<http://www.barifuri.com/>

谷本恵隆さんは「やはり安産祈願として知られていることから、参拝される方はご妊婦さんや小さいお子様、娘の安産を願う高齢者の方々が必然的に多くなります」。

中山寺は、1995（平成7）年に開創1400年記念行事として、新築、改修工事を行う予定があり、同年1月18日から着工する予定だった。ところが、その前日、1月17日に阪神淡路大震災が起きた。中山寺も総持院、華藏院など山門を挟む塔頭に甚大な被害をこうむった。観音様のご加護によるものか、本堂だけは奇跡的に被害をまぬがれることができた。「全国的にもバリアフリーの設備が充実してきたのか、ここ5、6年は車いすで参拝される方が増えたように感じます。また中山寺に参拝される方々は、安産祈願ということもあって、もとより車いすやベビーカーで来られる方が多い。なので改修工事にあたっては当初よりエレベーターやエスカレーターをつける計画でした。しかし改修工事着工の前日に震災を経験するにあたり、あらためて震災復興事業の一環として、安全性にも配慮しながら綿密なバリアフリー計画を立て

てました」と谷本さん。

本堂と五重塔までのルートには、エレベーター2基とエスカレーター2基を設置。さらに大願塔へのつながるルートにもエレベーターが設置されている。つまり本堂、大願塔、大師堂、五重塔など主要なお堂には、車いすやベビーカーでスムーズにお参りできる。「境内の雰囲気のおかげで違和感のないよう、景観については考慮しました。昔ながらの石段に沿わしつつ、外観的にも朱色を使うなど外観的にも違和感のないようにしました」

また「本堂までの坂道もスロープなっています」ということなので、もし体力があるのであれば、エレベーターなどの設備に頼らなくても本堂にたどり着くことができる。

エレベーターだけでは ないさまざまな配慮 が各所に

参拝者への配慮はこれだけではない。「お手洗いやバリアフリーに配慮しています。洋式の多機能のものに改修しており、手すりも設置しています。もちろん

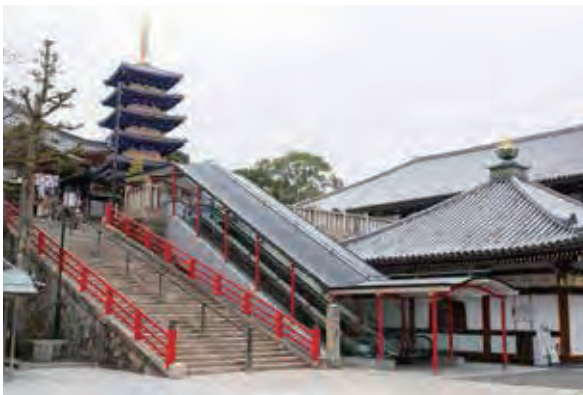
トイレに入るまでの動線においてもスロープを設置しています」。トイレの暖かい便座は、急激な温度差によって体調が急激に悪化するヒートショックの対策としても有効だ。「結果として、ご参拝の方々からも『これええやんか』『助かるわあ』という声を聞くことができます」

JR 中山寺駅構外には、2002（平成14）年からエレベーターが設置された。これは宝塚市が自治体として取り組んだものだ。宝塚市はほかにも、「交通バリアフリー法に基づく重点整備地区」として宝塚駅周辺及び逆瀬川駅周辺の2地区を

指定し、各地域におけるバリアフリー化のための整備目標、整備内容を盛り込んだ基本構想の策定を行っている。このように、自治体と地域が同じ志をもつてバリアフリーに取り組むことが、今後のさらなる普及につながるのではないだろうか。

大本山 中山寺

〒665-8588
兵庫県宝塚市中山寺2-11-1
TEL:0797-87-0024
<http://nakayamadera.or.jp/>



中山寺の本堂へ向かうエレベータとエスカレータ

今後はバリアフリーの 「質」が問われることに

2008（平成20年）3月、日本では「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱」が策定され、内閣府も関係機関との連携を図ってバリアフリー化に積極的に取り組んできた。その効果もあって、国民への調査においても約半数の人が「バリアフリーは十分進んだ」と考えるようになった。※2016（平成28）年3月公開の内閣府による意識調査報告書より。

しかし、今後さらなる超高齢化社会を迎えるにあたり、バリアフリーに対する意識や現状の設備に対してさまざまな場面でその質を問われることとなるだろう。利用者の立場に立って考えたバリアフリーの取り組みが、社寺を含めた地域全体の活性化につながるというよう。

全 国 寺 社 イ ベ ン ト



右・左上:第1回目の西本願寺での参加者によるディスカッションや授業の様子 左中:第2回目の富山では地元の伝統工芸職人にも学んだ
左下:ディスカッション参加する「スクール・ナーランダ」発案者・林口砂里さん

浄土真宗本願寺派（西本願寺）「スクール・ナーランダ」

仏教をベースに生きる智慧を 異分野の専門家より横断的に学ぶ場

不確実な時代だからこそ
生きる軸を育む場が必要

浄土真宗本願寺派（西本願寺）で今年2月4日（土）、5日（日）、現代版寺子屋「スクール・ナーランダ」お寺で学ぶ今と未来を生きる智慧」が開かれた。発案者は有限会社エヒファニーワークス 代表取締役の林口砂里さん。アートや音楽、仏教や自然科学など幅広い分野と社会の橋渡しを行うプロデューサーである彼女はこう語る。「音楽イベントを通じて出会った地元富山県・善巧寺のご住職が本願寺とのご縁を繋いでくださいました。2015（平成27）年6月、浄土真宗本願寺派 子ども・若者ご縁づくり推進室コンサルタントに就任。現代にふさわしい仏教の伝え方として事業を幾つか提案、その中から、新しい学びの場づくりの案が選ばれ、1年半の準備期間を経てスクール・ナーランダが実現しました。企画趣旨を尋ねると、「不確実な時代に暮らすには、揺らぐことのない生きる軸を持つことが大

意欲的で熱心な受講者は
感受する心を自然と磨く

切です。そこで、2500年にわたり人々の心を救ってきた仏教の教え、普遍的価値や人類が積み重ねてきた叡智を、僧侶や異分野の専門家から横断的に学べる場を若者に提供したいと考えました」

京都のテーマは「わけへだてと共感」。本願寺ツアーや、僧侶、認知科学者、アートディレクター、ラッパー、映像人類学者と多彩な講師による授業、最後はディスカッション。2日間で10代、延べ120名が参加した。「意欲・熱意・吸収力あふれる参加者はとにかく前のめり。『ディスカッションの時間が足りない』との声が出るほど活発に意見が交わされました」と林口さん。

3月4日（土）、5日（日）には富山県の飛鳥山善興寺他で第

2回を開催。全日程を終えた林口さんの手応えは大きい。「アーツも科学も伝統も：すべての分野を包括するように仏教があると実感しました。授業のベースにある仏教的思考が伝わっているのは、受講者アンケートからも見て取れます。感受する心を磨くことが仏教的な生き方につながることも自然と学んでくれています」

今年度も京都プラス別地域の2回開催を予定。サポートスタッフは組織化し活動を進化させていくという。新たな学びの場は新たな縁が結ばれる場でもある。



龍谷山本願寺（西本願寺）

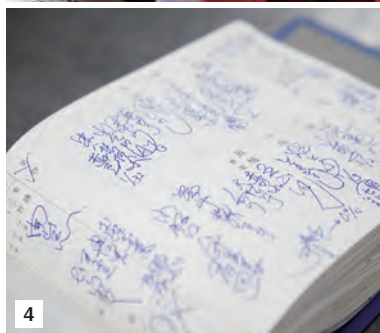
浄土真宗本願寺派
子ども・若者ご縁づくり推進室
〒600-8501 京都府京都市下京区
堀川通花屋町下ル
TEL. 075-371-5181 (代)
<http://www.hongwanji.or.jp/>

職人技

伝統と文化を継承する職人名鑑

精進料理

の「守るべきもの」 「変えるべきもの」



1. 五代目となる上田さん。近年は海外からの旅行者に精進料理の説明をすることも
2. 1の写真で上田さんがアヤマの姿を模した形に切っていた、お吸い物に浮かべたウド
3. 精進本膳。焼き胡麻豆腐、海老芋残菜あんかけ、筍ごはんなどが朱器に美しく映える
4. 各寺院の献立がすべて記されている献立表。中には門外不出の献立も
5. 師匠のだしの味に魅せられこの道に入った植村さん
6. 各本山からのご用達として約150年の歴史を数える



有限会社 矢尾治

〒600-8486
京都市下京区高辻堀川町358
TEL.075-841-2144
<http://kyoto-shoujinryouri-yaoji.homepage.jp>

近年、海外からも注目を浴びる精進料理。仏教の教え自体を体現しているこの料理の流儀を明治元年以来守り続けるのが、精進料理専門仕出し料理店「矢尾治」だ。五代目店主の上田倫正さんは「精進料理には2種類ある」と言う。「一つは『変えてはいけない料理』。清水寺では毎年1月に行われる修正会しゆせいゑで白味噌の雑煮を中心とした料理を作ります。この内容は必ず同じで変えてはいけません。もう一つは落慶法要などのお祝いごとは『おまかせ』。精進料理の形に反しない程度に、西洋野菜を使ったり京料理の技法も取り入れ工夫をしています」。フランス料理出身で今は上田さんのもとで腕を振るう植村泰行うゑむら たやゆきさんは、「この店に入るまで精進料理のことを何も知りませんでした。驚いたのは昆布ダシです。昆布ひとつでここまでおいしくなるのか、と。その素晴らしさは守らねば」と話す。

現在、各寺院では大きな開山忌を迎え、建仁寺は栄西禅師の800回忌を数年前に終えた。「つまり800年以上、受け継がれてきた料理ですから、その味や形式は守らねばなりません」と上田さん。「ただ、時代と共に変化する部分もある。守るべきは守りつつ、変化するべきは変化していくことが大切だと思っています」



経験豊かな宮司の奮闘で 蘇った近江源氏の氏神様

荒廃した歴史ある神社を内外から活性化し、見事に立て直した宮司。再建復興の成功の鍵は、経験に裏打ちされた数々のアイデアにあった。

復興への道のり

近江源氏の氏神様として崇敬され、佐々木姓発祥の地に鎮座する滋賀県の沙沙貴神社。堂々たる社殿は、県の文化財指定を受けており、鎮守の森は珍しい樹木草花が多いことで知られる。

しかし、40年ほど前までは、戦後の混乱期のままに荒れ果て放置されていた。現在までの復興を成し遂げたのは、昭和48年に就任した岳宮司である。

日牟禮八幡宮の次男に生まれた岳宮司は、伊勢の神宮皇學館で学んだ後、父のもとで禰宜を勤めるかたわら滋賀県神社庁に奉職。神社庁では主事として、工費1億円の新築工事の責任者を務めた。また、日牟禮八幡宮では禰宜として、松明祭の飛び火で焼失した楼門屋根の修復にあたり、募財から竣工までを完遂し



楼門の屋根葺き替え工事にかかった昭和50年頃



復興にあたり岳宮司を心身ともに支えたのは、妻の睦子さん。「由緒ある神社を一から再建していくのは、やりがいのある仕事。こんなおもしろいこと、他人には任せられませんよ」。明るく前向きな言葉に励まされたという

た。その手腕を見込まれ、沙沙貴神社の氏子総代から是非にと請われて、宮司に就任したので。

「当時、森は鬱蒼として、本殿は雨漏りし、社務所は傾いて戸締まりすらできない有り様でした」

まず着手したのは、主要建物の屋根葺き替えと社殿の修理。本殿、権殿、拝殿、楼門、社務所の工費概算見積もり額は、5千万円に上った。「とてもそんな金は出せない」と机をたたいて怒った氏子もいた。しかし生い茂った枝を手ずから払い、境内の整備に取り組む岳宮司夫妻の姿を目にして、氏子総代を中心とする地域の協力体制が自然と形づくられていった。協議の末、毎年1千万円を目標とする募財の5カ年計画が整い、着工。数年後に控えた宇多天皇式年祭に向けての事業も策定し、昭和55年、総事業が完成した。



1 伊勢の神宮ゆかりの米、懸税(かけちから)「イセヒカリ」から醸造した純米酒「神乃滴」。日々早朝の日供祭(につくさい)に、御食(みけ)米、御酒(みぎ)酒としてお供している。2 境内の珍木ナンジャモンジャ(正式名ヒトツバタゴ)。白く細い花が見頃となる5月中旬には多くの人が訪れる。3 季節の行事や社頭整備の状況などを伝え、地域の人々や全国の支援者との輪を育む社報「甘美」。4 十二支の像がずらりと並ぶ「干支の庭」は、年男・年女の氏子さんの浄財によって造られたもの。毎年、年賀状用の撮影に訪れる人もいる



転機となった文化財指定

神社庁での経験から、どんなに人情が苦しくてもこれだけは必要と積極的に取り組んだのが広報活動である。

「具体的な活動内容を知ってもらい、必要性を訴えかけなければ募財は成り立ちません。そこで、再建に向けての動きと教化活動を広く知らしめるために、社報を発行し、地域の方々や参拝者、関係各所に送付しました」

また、以前から全国の佐々木姓の集まりを組織化するという動きがあったのに目をつけ、近江源氏「沙沙貴神社全国佐佐木会」と改称した。会員に社報を送ると反響があり、日本じゅうに崇敬者の輪が広がることも多大な支援が寄せられるようになった。

岳宮司のあふれる熱意に突き動かされ、徐々に再建が進んでいった頃、大きな転機が訪れた。

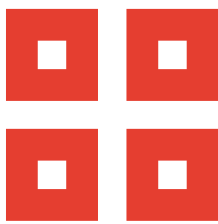
平成元年夏、江戸中期に再建された楼門、東廻廊、西廻廊の調査のため、県の文化財保護審議会の委員らが沙沙貴神社を訪れていた。屋根を檜皮葺から銅板葺に替える際に出てきた棟札を何気なく見せたところ、研究者たちの顔色が変わった。「これは持ち帰って詳しく調べてみたい」と結果、江戸後期の丸亀藩主、京極高朗公の名前が発見され、

本殿、権殿、拝殿、楼門、東西廻廊など8棟が滋賀県有形文化財指定を受けた。

「文化財指定を受けてからは、補助金がおりるようになり、とても助かりました。屋根工事のとき、大事なもののだからきちんと保管しておくようアドバイスしてくれた棟梁に感謝しています」

平成4年から10年がかりで、県と市の補助金と指導監督により、消防法の基準に則した防災工事と、電線・下水道などの地下埋設を含む環境整備が完成した。とはいえ、8千坪もの外苑・境内を管理していくのは並大抵のことではない。新たに補修・改修が必要な箇所が次々とでてくる。現在は「平成の社頭整備」のため、勧募を呼びかけている。

「またかとお思いの方もおられるでしょうが、立派になってうれい、こんな形でお金を使ってくれらるなら甲斐があると言ってくれ



神紋「七ツ割平四ツ目」



ささきじんしゃ 沙沙貴神社

〒521-1351
滋賀県近江八幡市安土町常楽寺1
TEL.0748-46-3564
<http://sasakijinja.or.jp/>

さる氏子さんもいます」

さらに広がる将来の展望

10月で80歳を迎える岳宮司が、めでたく復興が成った今なお意欲的なのは、もうひとつ理由がある。長女の郁美さんが後継者として禰宜を務め、孫の祐真くんも神事のたびに参加してくれるからだ。

「沙沙貴神社の一番の魅力は、重厚な建築物や珍しい樹木など多彩な文化にふれられること。ほかにも文化財指定のきっかけとなった棟札、大津市在住の画家ウイリアムズ氏に寄贈された絵画など、たくさんさんの宝物があります。将来、それらを一般の参拝者の方々にご覧いただける展示館を設けたいと考えています」

広大な境内と社殿を護持し次代への灯を絶やさぬために、さらなる夢をふくらませている。

株式会社中外日報社
代表取締役社長・主筆
営業統括

形山 俊彦

昭和26年岡山県生まれ。花園大学を卒業し、新聞社への興味から中外日報社に入社。東京本社(当時は支社)に配属。営業・編集の業務に当たる。その後、取締役編集局長、中部支社長、常務取締役編集局長、専務取締役営業統括兼東京本社代表等を経て、平成26年5月から代表取締役社長・主筆となり、平成28年5月からは営業統括も兼ねる。涙骨社主以後の激動の時代、それに伴う会社の変遷を経験。社歴40年を超える最古参として社主の遺志を繋いでいる。



またにるいこつ 真涙骨の創刊から120年 宗教・宗派を超えて時代を見つめ続ける

創刊者の真涙骨 時代に新たな一歩

1897(明治30)年に真涙骨氏によって創刊され、今年120周年を迎えた宗教文化専

門紙『中外日報』。仏教をはじめ神道、キリスト教、新宗教など宗教、宗派を超えた記事を掲載し、日本の宗教界に重要な役割を果たしてきた。今回、中外日報社代表取締役社長であり同紙の主筆

である形山俊彦さんに、創刊当時の歴史を語ってもらった。「この新聞を創刊した涙骨社主は、福井県敦賀にある浄土真宗本願寺派の寺院の長男として明治2年に生まれました。西本願寺立の普

通教校に入学すると、腕白ぶりを発揮して1年ほどで退学。その後、博多・万行寺の七里恒順和尚のもとで修行するも、やはり和上を悩ましていたようです」
破天荒な人柄のようだが、この時期からすでに情報発信への魅力は感じていたようだ。「この頃にガリ版刷り新聞を発行しており、ペンを持って何かを書き伝えることには魅力を感じていたのだと思

ます。その後、七里和上から『自分にふさわしい道を行きなさい』と言われ、万行寺も追放された。そしてその後8年間ぐらいつつ放浪の生活を続け、明治30年に京都に出てきて『中外日報』の前身である『教学報知』を発刊しました」
明治には、さまざまな新聞が創刊されていたが、宗教に関わる出版物は教団の機関紙誌ぐらいで、いわゆる宗教新聞としては『教学報知』が初めてではないかと推察される。「大教団に対する批判的な記事を書いていたことから、当時はかなり衆目を集めたのではないでしょうか。文章の練達な人だったことから、多くの人に読まれたことでしょう」

宗教と社会をつなぐ 中外日報の誕生

そして1901(明治34)年、『教学報知』の終刊号を発行。翌年の1902(明治35)年に「教学報知の死、中外日報の生」を宣言して『中外日報』が第歩を踏み出した。宗教を中心として普く政治、文学、実業その他中外の諸方面に涉りて報道、論評を試むべし、というのが『中外日報』の発刊主旨だ。「宗教がベースにあ



るけれど、世間一般あらゆる出来事を記事にする。中外という名前も、宗教界のウチだけでなくソトのことも掲載する。国内国外も含めて、もっと大きな視野で記事掲載をしていくものとして登場しました。創刊以来、第二線で活躍する宗教者や思想家、政治家、社会活動家が数多く執筆。明治期には清沢満之、三宅雪嶺、井上哲次郎、新渡戸稲造、幸田露伴らが、大正から昭和にかけては暁烏敏、鈴木大拙、西田幾多郎、吉野作造、菊池寛、武者小路実篤ら名だたる名士が紙面を彩った。しかし、第二次大戦を迎えるにあたって大きな危機に会うことになった。「当時は言論統制があり、新聞社は統廃合されました。本来、発行できるのは『県紙』だけ。京都は京

都新聞がありましたので、弊紙は廃刊となってもおかしくなかったのですが、京都では京都新聞に加えて『中外日報』も発刊が許されました。つまり、そのような時代さえ私どもの存在意義が認められたのです。その後も一貫して、外から見れば閉ざされてみえる宗教界の内部事情を、第三者の目で情報公開していくという、私どもの基本姿勢は変わりませんでした。宗教に対して時代の空気や時代の流れを伝えていくこともできるし、社会における宗教の立ち位置を分析して提示するということもできる新聞だと思っています」

そして新たな時代へ 中外日報の存在意義

当然、少子化による宗教離れ、過疎化による檀家制度の崩壊など、昨今の宗教界における問題についても注視する。「今、若い人たちの宗教離れを危惧する話がよく



創刊者の真涙涙骨氏

聞かれますが、それについて私は違う意見を持っています。確かに葬儀や埋葬の形は変わりましたが、心のなかの宗教心が薄らいだとは思えません。興福寺の阿修羅像を東京にもっていきげばすぐく人が集まるように、人々は何かを宗教に求めているのです。寺社が今までとは違う窓の開き方をすれば、人々が入ってくるのではないかと思います」

今後、真涙涙骨氏から脈々と伝わる精神を軸に据えて発刊を続ける中外日報。「私たちは、涙骨社主の言われた、宗教をベースとしてあらゆる社会事情を報道していく新聞であると同時に『宗教とは何か』を問いかける場であるべきだと思います。また、宗教文化専門紙ということから言え

ば、宗教の原点から現在に至るまでの歴史、そして現状を理解することが重要で、す。それも、宗教と一体となつて考える。そういった記者の自己研鑽によって現代

宗教の問題を提起できるのです」この研鑽によって得られた「日本の宗教文化に関する情報」は、他の新聞では獲得できない貴重なもの。昨今の海外旅行者が、日本文化に対してさらに深い知識や体験を求める傾向があるなか、この情報は非常に有効だ。「私どもは日本宗教界に関する知識を持っており、それは日本文化に興味を持つ海外の方々にも有益だと思います。また、全国寺社観光協会さんは観光という切り口のユニークな視点を持っている。日本文化の発信という観点から、今後、互いに協力できる部分もあるのではないのでしょうか」。日本宗教界と社会をつなぐ役目だけでなく、日本文化の発信という新たな役割も未来に据えている。

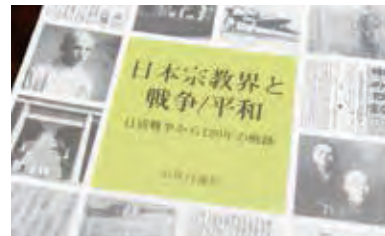
株式会社 中外日報社

<京都総本社>
〒601-8004
京都市南区東九条東山王町9番地
TEL 075-671-3211

<東京本社>
〒113-0033
東京都文京区本郷4丁目9番13号
TEL03-3816-4721
<http://www.chugainippoh.co.jp>



2008 (平成20) 年3月に『中外日報』創刊110年記念として出版された『八十八年のち輝きて 真涙涙骨翁』。創業者、真涙涙骨の生きた88年をまとめた書籍



2015 (平成27) 年12月1日に中外日報社より発行された冊子『日本宗教界と戦争/平和 日清戦争から120年の軌跡』。近代日本の宗教界は戦争といかに関わり、平和にどう取り組んだかをまとめた貴重な資料

「社寺巡礼の旅」平成28年度観光庁採択事業

2020年東京オリンピック・

パラリンピックを目前に政府のインバウンド誘致事業はますます加速し、有名観光地に集中する訪日外国人観光客らをゴールデンルート以外の地域へも誘客するための取り組みとして、観光庁は昨年、「テーマ別観光による地方誘客事業」を発表しました。(社)全日本社寺観光連盟は15万社寺とも言われる中から久能山東照宮を始め8つの社寺と社寺観光地域連携協議会を発足し、「社寺巡礼の旅」をメインテーマとして平成28年度事業は「徳川

家康公の足跡をたどる」を申請し、採択されました。平成28年度事業の成果報告会は本年3月17日に東京都内で開催され、社寺観光地域連携協議会も参加・報告し好評をいただきました。

具体的な取り組み内容は共同ポータルサイトの構築、共同パンフレットの製作、マーケティング調査、ファームニターツアーの催行、ネットワークの拡大で、詳細は観光庁のホームページ(社)全日本社寺観光連盟のホームページ上でも紹介しておりますので、ぜひご覧ください。



成果報告会での様子



マーケティング調査、高月院にて

〔事業の目的〕

社寺ファン獲得を最終目標に

日本固有の文化は社寺にこそ凝縮されており、外国人のみならず多くの日本人にも魅力的な文化が確かにそこには存在しています。本事業においては、外国人をメインターゲットとして外国人ならではの目線で新しい魅力を発掘してもらうことにより、日本人が社寺の魅力を再認識できることを目的としています。

〔ポータルサイトの構築〕

視覚に訴える重要性

インターネットの普及により旅先の情報も個人で容易に入手できるようになった今、個人旅行が主流となり、訪問先を決めるための手段としてインターネットツールは欠かせず、人気観光専門サイトや人気ブログ等とのSNSと、その選択の範囲も広がっています。それらに共通する

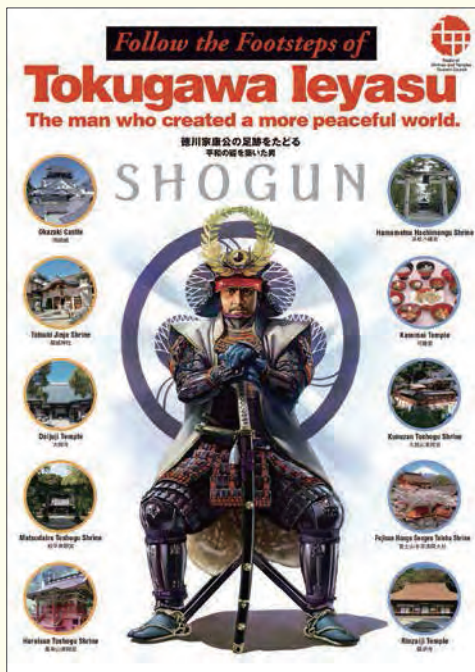
のは視覚に訴える映像で、SNSによって新たな観光地が発掘される現象も発生しています。社寺観光地域連携協議会も共同ポータルサイトの構築に取り組み、平成28年度事業のテーマである徳川家康公のイメージを映像で訴えかけました。

〔共通パンフレットの作成〕 ストーリーは人を魅了し 引き寄せる！

【欧米列強に開国を迫られ近代化を目指した明治維新を迎えるまで265年も続いた江戸時代は日本に平和な世と稀有な文化をもたらした。トム・クルーズ主演の「ラストサムライ」でも記憶に新しいが、そのサムライが闊歩する時代・江戸の礎を築いた人物こそが徳川家康公だ。1980年には家康公をモデルとしたドラマがアメリカで大ヒット。最近でも、小説「徳川家康」が中国で200万部以上のベストセラーとなり2008年の「最



(上・右)徳川家康公を紹介した英文ポータルサイト



(左)パンフレット表紙 徳川家康公イラスト:海老原英明

(上)パンフレット抜粋

※共同ポータルサイト「徳川家康公の足跡をたどる」へアクセスするとE-BOOKとしてパンフレットがWEB上で閲覧可能



家康公ゆかりの社寺を巡ることが聖地巡礼として特別感を演出できる御朱印帳を製作・配布

優秀外国書籍」に選出されるなど、時代と国境を越え愛されている。家康公及び江戸を知るには彼の庇護した社寺仏閣を訪れるほかはない】

共通パンフレット英語版の導入文（日本語訳）です。英語版はネイティブスピーカーによって解説を加え、徳川家康公を知らない人でも興味がわくような偉人として紹介することで、そのゆかりの地で体験することが特別なものとなるよう工夫しました。

昨今の観光消費行動調査では訪日外国人の消費行動がモノ消費からコト消費へと変わってきているといいますが、社寺は最上級の「コト」を体験できる場所であり、本事業のモニターツアーでも特別な体験がツアーの満足度を高めたことが分かりました。

多国籍参加者によるモニターツアー催行 家康公の足跡をたどる

2017(平成29)年2月、2泊3日の行程で、愛知県・静岡県内の徳川家康公ゆかりの社寺を中心に、家康公の足跡をたどるモニターツアーを催行しました。

1日目

徳川美術館↓昼食↓大樹寺(写真①②)↓家康館↓岡崎城↓龍城神社
(写真③④)↓八丁味噌蔵体験(家康公の好物を試食)↓夕食



3



1



4



2

1.松平家の菩提寺:家康公が19才で岡崎城へ入城する前に難を逃れ、生涯旗印とした「厭離穢土欣求浄土」を授かった寺
2.等身大の位牌は圧巻、イメージが植え付けられる展示に満足 3.家康公を御祭神とする神社 4.正式な参拝を体験

2日目

浜松八幡宮(写真⑤)↓浜松城(写真⑥)↓昼食↓酒蔵体験(『徳川家康』
などを試飲)↓可睡齋(写真⑦⑧)↓浮月楼(慶喜公住居跡)にて夕食



7



5



8



6

5.家康公が武田軍から身を潜めた楠の洞窟のストーリーに感動!
6.家康公が武運長久を祈るため度々参拝した祈願所
7.家康公と和尚との親愛の情が寺の名前の由来に
8.写経体験で大満足!

駿府城跡公園↓臨濟寺(写真⑨⑩)↓語り部カフェ「華」(古民家で家康公の健康食を体験)↓久能山東照宮(写真⑪⑫)



11



9



12



10

9.一般公開されていない特別空間で坐禅体験と木魚に触れられたことに感動!竹千代手習いの間も!
10.幼き日の家康公の学び舎 11.家康公が眠る全国東照宮の創祀 12.宮司様と直接会話ができたと本物の宝物に感動!

平成29年度は「修行の道を歩く」をテーマに

社寺観光地域連携協議会は、平成29年度の「社寺巡礼の旅」事業として、「日本人のころ」の根源の一つである「修行」を取り上げます。

我が国では、古くから山岳信仰が発展し、日本独自の修験道が生まれました。昨今は、世界中に愛好家がいる登山やブームになっているパワースポット巡り等と通じるものがあって、山岳信仰や修験道は注目を浴びてきております。本物の体験を求めて人里離れた社寺に修行に訪れる外国人も年々増加しています。

本事業は、旅行者が修行の道を歩くことで社寺の持つ歴史文化の奥深さに触れ、修行の一端でも体験することにより得られる達成感でファンを獲得し、リピーターの増加へとつなげることを目標としています。

尚、本事業へご賛同いただける社寺の皆様には是非ともご参加いただければ幸いです。お問い合わせにつきましては、(一社)全日本社寺観光連盟までお願いいたします。



<お問い合わせ先>
一般社団法人
全日本社寺観光連盟
〒107-0052
東京都港区赤坂2-8-16
赤坂光和ビル2階
TEL:03-6416-0166
FAX:03-6230-0349
e-mail: info@jtast.jp

何気ない「おもてなし」に感動!
多数の外国人(アメリカ・フランス・スペイン・ロシア・タイ・マレーシア・台湾)が参加し、中にはコスプレイヤーマも混ざり、訪問先の皆様に温かく出迎えていただき、ツアーは大

変盛り上がりました。また、思いがけない場所に素晴らしいストーリーと景観があることを発見した喜びを味わうとともに、普段体験することのない特別感に感動し、歴史的建築物と取り囲む自然の美しさへ参加者は一様に感嘆の声をあげていました。

圧巻の迫力と躍動感、岡山県重要文化財

木造金剛力士立像



(右上) 金剛力士像(阿)密迹金剛神
 (左上) 金剛力士像(吽)那羅延金剛神
 (下) 各金剛力士像の表情



にちれんしゅう ふじたさん じょうじゅじ
日蓮宗 藤田山 成就寺
 〒709-3144
 岡山県岡山市北区建部町富沢682
 TEL : 086-722-0677
<http://temple.nichiren.or.jp/6011080-jiyouji/>



今から1200年前以上の昔、報恩大師摩訶上人によって創建された成就寺。備前四十八ヶ寺最期之霊跡だ。こちらの仁王門には金剛力士像が鎮座している。約800年前の1230年代、鎌倉時代に慶派仏師によって寄木造りにより製作された。その圧倒的な存在感は観る者を一瞬にしてひきつける。

門に向かって右の阿形像は口が開き怒りの表情、左の吽形像は口を結び怒りを内に秘めた表情。阿形像が左手に持っているのは、金剛杵で、仏敵を退散させる武器といわれている。その隆々としたリアルな筋肉、全身のバランスの良さ、躍動感あふれる様は、鎌倉彫刻の特徴を表している。

不幸にして1766(明和3)年、同寺は火災により、精舎のことごとくを焼失。しかし仁王門だけは火災から逃れた。一県内でも最も古い守りの神として、1994(平成6)年4月5日、岡山県重要文化財に指定されました。この像は地域の宝であり、大切に次世代へ受け継いでいくべき像です」と語る森本晃二住職。2011(平成23)年仁王門改築に合わせ、像は修復を兼ね全身漆塗りに。その様はより一層、迫力と力強さを増した。



(上)本殿とその前に安置された木造獅子狛犬
 (右)阿形の獅子
 (左)吽形の狛犬



ひらしみずはちまんぐう
平清水八幡宮

〒753-0841
 山口県山口市吉田2244
 TEL.083-922-0178



木造獅子狛犬

地域に愛され守られ続ける県指定文化財

809(大同4)年に豊前の宇佐八幡宮から分霊され、山口市吉田一帯の鎮守として創建された平清水八幡宮。本殿に安置されている二対の木造彫刻は、向かって右が跨踞の構えの阿形の獅子、向かって左が角一つを備える吽形の狛犬である。

これらが納められた由来は不明だが、制作は南北朝時代1373(応安6)年とあり、県内最古級とされている。各像の底に制作時期とともに「大工僧道随」という制作者名を示すとされる墨書銘がある。像高は獅子が74.3cm、狛犬が72.2cm。ともにヒノキ材の一木造で、顔面に彫り込んだ彫眼が印象的である。獅子の方は唇の上線に植毛のための穴が穿たれている。鬣と各肢の毛および尾は緑青、それ以外の体部はベンガラ塗り。狛犬の構造は獅子に準ずるが、体部は褐色、腹部のみベンガラ塗り。石造が多いなか木造の獅子狛犬は希少価値が高い。

貴重な木造獅子狛犬を国指定重要文化財である社殿とともに保全するのは地元住民の方々。季節ごとの祭礼時には社殿に人々が集い、普段の管理は住民が持ち回りで「総代」を務めるなど、宮司と協力し合って次の世代へ受け継いでいる。

葛木御歳神社『宮司による神道の講座 かながらのみちのお話』

宮司を慕う地域の人々の要望で始めたカフェが 今では地域の人々との交流場に



(右)「かながらのみちのお話」の様子
(上)東川宮司(左から2人目)と、参加者のみなさん(左から)西林美香さん、松雪莉歩さん、松雪万喜子さん
(下)森に囲まれた葛木御歳神社



**親しみやすい女性宮司のもと
お茶を楽しみながら神道を学ぶ**

2千年もの歴史を持つ奈良県の葛木御歳神社。その神社に寄り添うようにあるのが「サロン&カフェ みとしの森」だ。ここでは毎月1回「かながらのみちのお話」という勉強会を開催する他、演奏会や舞踏のワークショップを実施し文化交流の場となっている。中でも、毎回テーマを決めてお茶とお菓子とともに神道について学ぶ「かながらのみちのお話」は、第1回から参加する人も多い人気の会。「かながらのみち」というのは、神様の御心のままにある道という意味。この会では神社に参拝する際の基本から神様に関する雑学をはじめ、祝詞の意味などを楽しく学びます。私自身、日本人が持つ美德というのは神道の精神世界が強く影響していると考えており、神道に触れることで日本や日本人の魅力を再発見できればと願っています。それを発信するのがこの会で、勉強会を通じて神道文化をより多くの方に伝えることが目標です」と現在神社を守る東川優子宮司は語る。

**開かれた神社だからこそ
地域からも遠方からも愛される**

実際に「かながらのみちのお話」に親子で参加している松雪さんは、「お参りの作法や祝詞が何を伝えているか

を学べるので神社に対する興味が深まり、日々の中で生まれる感謝の心を以前より感じる事が増えました。東川宮司のお人柄もあって気軽に楽しく参加できます」と次回の開催を心待ちにしている。

葛木御歳神社は、その長い月日の中で盛衰を繰り返し、現在神社を守る東川宮司が跡を継いだ時には非常に寂れていたという。手水すらなく壁も崩れかけていた状態を目の当たりにした東川宮司は、ホームページで有志に呼びかけ、参拝客があとをたたない神社へと復興させた。「猪突猛進の性格なので、やると決めたら直線。復興の最中にたくさんのご神縁を感じたこともあり、多くの方に支えられて今があります」と語る。「サロン&カフェ みとしの森」はそんな宮司を慕う地域の人々からの要望もあり、2015(平成27)年の6月に始められた。ここで遠方からの参拝者同士の交流が生まれることも多い。東川宮司は今後子ども向けのワークショップなども考えているそうで、さらに人で賑わう神社となりそうだ。

- 開催概要…毎月1回程度実施(フェイスタックまたはホームページにて開催日を告知)※同じ内容のものを平日と土曜日または日曜日に実施
- 参加料…1人3000円(キーキコーヒー付)
- 所要時間…14時30分～16時30分の2時間
- 開催場所…葛木御歳神社
- 「サロン&カフェみとしの森」
- T 6339-22262
- 奈良県御所市東持田269
- TEL:0745-66-17008
- http://www.mitoshin.jp
- http://mitoshinonori.com/

今後皆さまのお役に立つデータを
適時ご紹介させていただきます。

寺社お役立ち

データ室

全国寺社数ランキング



都道府県別 寺院数ランキング

1位	愛知県	4,599
2位	大阪府	3,396
3位	兵庫県	3,281
4位	滋賀県	3,214
5位	京都府	3,082
6位	千葉県	3,005
7位	東京都	2,880
8位	新潟県	2,789
9位	静岡県	2,623
10位	福岡県	2,387
11位	三重県	2,349
12位	北海道	2,334
13位	岐阜県	2,281
14位	埼玉県	2,265
15位	神奈川県	1,897
16位	奈良県	1,816
17位	広島県	1,732
18位	福井県	1,683
19位	和歌山県	1,593
20位	富山県	1,590
21位	長野県	1,554
22位	福島県	1,539
23位	山梨県	1,495
24位	山形県	1,487
25位	山口県	1,434
26位	岡山県	1,398
27位	石川県	1,380
28位	島根県	1,313
29位	茨城県	1,296
30位	大分県	1,244
31位	群馬県	1,209
32位	熊本県	1,201
33位	愛媛県	1,083
34位	佐賀県	1,082
35位	栃木県	993
36位	宮城県	948
37位	香川県	877
38位	長崎県	741
39位	秋田県	682
40位	岩手県	632
41位	徳島県	631
42位	鹿児島県	485
43位	青森県	477
44位	鳥取県	468
45位	高知県	370
46位	宮崎県	353
47位	沖縄県	86
		合計 77,254

都道府県別 神社数ランキング

1位	新潟県	4,758
2位	兵庫県	3,870
3位	福岡県	3,423
4位	愛知県	3,363
5位	岐阜県	3,277
6位	千葉県	3,189
7位	福島県	3,073
8位	静岡県	2,850
9位	広島県	2,787
10位	茨城県	2,492
11位	長野県	2,465
12位	富山県	2,284
13位	高知県	2,173
14位	大分県	2,138
15位	埼玉県	2,029
16位	栃木県	1,920
17位	石川県	1,893
18位	京都府	1,764
19位	山形県	1,748
20位	福井県	1,715
21位	岡山県	1,667
22位	東京都	1,469
23位	滋賀県	1,442
24位	熊本県	1,395
25位	奈良県	1,391
26位	長崎県	1,327
27位	徳島県	1,318
28位	山梨県	1,288
29位	愛媛県	1,257
30位	群馬県	1,222
31位	島根県	1,173
32位	神奈川県	1,159
33位	秋田県	1,150
34位	鹿児島県	1,136
35位	佐賀県	1,106
36位	宮城県	952
37位	青森県	887
38位	岩手県	872
39位	三重県	855
40位	鳥取県	825
41位	北海道	809
42位	香川県	805
43位	山口県	753
44位	大阪府	735
45位	宮崎県	679
46位	和歌山県	445
47位	沖縄県	14
		合計 81,342

上記のデータは、宗教団体（宗教法人を含む）を表しています。

宗教年鑑・平成27年度版（文化庁編）より作成



風まかせ 14

野田博明



「かぐや姫はなぜやってきたのか」

前回の桃太郎につづいておとぎ話を語ろうとかぐや姫の本文をはじめと紐解いた。おとぎ話に本文とは大仰な物言いだが、

竹取物語は、かの紫式部が「物語の出で来はじめの祖なる竹取の翁」と評した歴とした古典文学である。桃ちゃんや浦ちゃんには申訳ないが、口頭伝誦や口承文学とは異なり、文字で書かれた物語の嚆矢とされている。

この千百年前に創作された物語がとんでもなくシニールでクール、しかも皮肉と機知と批判精神に富んだ超一級の読み物であるのには驚くばかり。粗筋は凡そ知っているつもりでいたが、21世紀のわれわれに訴えかけて

くるものが半端でないことに感服、その巧妙な筆致に作者の並々ならぬ教養を感じる。

一一、例をあげてみる。かぐや姫を娶りたいと多くの男たちが闇夜も厭わず垣根に穴をあけて、それでも館に忍び込もうとす

始めたのはそれからであるなどという一文はへえとその軽妙な語り口と併せて舌を巻く。また、右大臣・阿倍御主人がかぐや姫の望む不燃の火鼠の皮衣なる珍宝を大枚はたいて入手した話も念が入っている。結局、右大臣は偽物をつかまされ衣は燃え尽きてしまうのだが、姫を妻にできなかつた、阿倍は顔色なし、

努力しても願ひ叶わず気落ちすることゝあへなし、というようになつたと洒落てみせる件など秀逸である。

ついに貴公子たちはかぐや姫の難題を悉くこなせず挫折することになる。その滑稽な登場人物たちが実は壬申の乱の渦中でうごめいた重臣や皇子たち、さらに最後の求愛者となる帝

は天武天皇というのだからそのキャストイングの豪華さには驚き入るし、それを一片の未練もなく袖にしてしまうかぐや姫の痛快さに当時の女性たちはやんやの喝采を送つたに違いない。そこで、舞台は大和のどこになるのかとやら地図を広げ、

眼光紙背に徹した。手がかりは物語冒頭に出てくる竹取の翁の「讃岐造」という名とかぐや姫の名づけ親である「三室戸の忌部の秋田」という記述にあった。すると奈良の西端、斑鳩の南部のなだらかな丘陵地帯に目指す地名や神社がキラキラ光つてみえるではないか。北葛城郡の広陵町三吉に讃岐神社という式内社があった。平安時代にはこの地を廣瀬郡散吉郷と称しサヌキと呼ばれていた地域である。その祭神は讃岐伊能城命、ひよつとしたら竹取の翁のことなどと夢想してみる。讃岐造とは散吉郷の村長さんということであるから、かぐや姫の館はまさにこの周辺ということになる。

次に讃岐神社の南東6kmに忌部(檀原市)なる地名が認められた。そこには忌部氏の祖神である天太玉命を祀る文字通りの天太玉神社がある。香川県善通寺市に大麻神社という天太玉命を祭神とする古社がある。金比羅宮のある象頭山に連なる大麻山の麓に鎮座し、大和に移り住んだ讃岐忌部氏の本貫地である。忌部氏は祭政一致の古代、中臣氏とともに国家祭祀を司る両翼の地位を占めていた。祝詞という言葉を通じて神と交流する中臣氏に対し、忌部氏は大麻という名が表すように強い幻覚作用をもつ麻の雌株の特性を知悉し、異次元感覚をもって神と交流を図る職能集団であった。また、讃岐神社の北西6kmほどに龍田大社(生駒郡)を挟み二つの三室山がある。その入山口にあたる三室戸に忌部氏の長である秋田さんが居を構えていたのだろう。



6



7



8

- 1 讚岐神社拜殿
- 2 讚岐神社本殿
- 3 風の神様を祀る龍田大社（生駒郡三郷町）
- 4 水の神様を祀る廣瀬大社（北葛城郡河合町）
- 5 散吉郷の竹林
- 6 竹取公園とかぐや姫
- 7 橿原市忌部町の天太玉命神社
- 8 大麻神社（善通寺市）拜殿

野田博明（のだ・ひろあき）

昭和26年生まれ。東大卒。日本興業銀行広報部長などを経て、現在、一般社団法人全日本社寺観光連盟理事。平成27年文化庁・官公庁共管の「文化財の英語解説のあり方に関する有識者会議」、平成29年文化庁の「文化財の多言語解説等による国際発信力強化の方策に関する有識者会議」の委員。



知恩院にて

この讚岐神社から龍田大社にいたる丘陵の一部には現在、広大な竹取公園が整備され、その周辺には竹林が群生する。かぐや姫はこの辺りで翁に見つけられ、美しく育ち、そして言い寄る色男たちを拒絶し、八月十五日の満月の夜、雲に乗ってきた天人たちに迎えられ月の世界へと戻っていく。斎竹を材料とした竹珠は特別な呪力を有するとされる。竹珠を首にかけ幻覚作用を昂じさせ天語りする忌部の人々。この地は神と遭遇できる靈感あふれる、当時、名高い「妖」の地であったのではないが。だからこそ人々は光る竹の中から三寸ばかりの女子が生まれ、三ヶ月もしたら美しい女人となったなどというシュールな話にも、竹の呪力と大麻の幻覚により十分、得心したのである。

さて、そんな妖の物語にも大きな疑問が湧き上がった。かぐや姫はなぜ穢れた地上へわざわざ下りてきたのか。世の男たちを手玉に取り、帝のお召しにも「畏れ多いとも思いません」と言い放ち、「命令に背いたというのなら、さっさと殺して」と激越な言葉を吐く。

中納言の石上磨足に至っては燕の産卵時に出現する幻の子安貝だと勘違いし、こともあるうに燕の糞を掴み、転落した拳句に絶命する。糞だり蹴ったり、と洒落にもならぬ非才の筆者に対し、ここでも作者は冷淡である。磨足のように頑張っても期待に副わないことを、甲斐（貝）なし、というようになったと駄洒落してみせる。そして、それまでしばしば見せるかぐや姫の凍りつくような冷淡さにも鼻

白むものがある。こうなると世の男性の声を代弁して云わねばならぬ。「いいかげんにせぬと痛い目にあうぞ」と。

各地に羽衣伝説は色々ある。大方は羽衣を失った天女は地上の男性と夫婦になって、男を幸せにしたのち羽衣を奪い返し天界に戻っていく。それなりの情実味をしめす天女が一般的である。然るにこのかぐや姫ときたら何だ！ つい声を荒げてしまおう。「地上の男がそんなに嫌なら何で下界にやってきたのか」と。この単細胞の怒りに、雲に乗った「王とおぼしき人」は「かぐや姫は罪をつくりたまへりければ、かく賤しき」地上にいつしやり、いま、その罪障が消滅したのでお迎えに参つたと応えるのである。

ここで凡夫の悩みは深まる。月世界は罪という概念が存在せぬ無垢の世界のはず。王とおぼしき人、が敬語を使うほどのやんごとなきかぐや姫が天界で犯した罪とはいったい何か。悪あがきの末、凡人の至った答えは「完璧」という罪であった。至高の美と清らかさを具現する月世界の王女は天人ですら触れぬことのできぬ孤高の存在であった。為に、美しすぎる清らかすぎる科で穢れの充溢する地上へ下ろされた。下世話な言い方だが、俗世間の垢に少しは塗れて来いといったところである。そして暫く地上界の空気を胸一杯吸ったかぐや姫は不死の薬をひと舐めすることで穢れを祓い天人並みの清浄の身となる。さらに天の羽衣をまとうと「物思いなくなり」、一切の感情を失い、月へと帰っていく。ただ衣を着る前に、

阿蘇神社の復興を支援する「^{ほたるまる}蛍丸サイダー」 販売から8ヶ月間の売り上げの一部を同神社に奉納

昨年4月、熊本地震により国の重要文化財である楼門が倒壊し、神殿や拝殿なども大きな被害を受けた阿蘇神社。復旧には国庫補助事業の工事費以外に総額約8億円の費用が必要とされ、現在は2021年度の再建を目指し解体・復旧工事が進められている。その復興支援の一つとして注目を集めているのが、以前本誌でも取り上げた『蛍丸サイダー』だ。

『蛍丸サイダー』は、地元の特産品開発会社「阿蘇・岡本」が阿蘇神社復興プロジェクトとして企画・販売。1本300円(税込・200ml)のうち100円が再建費用の寄付にあてられ、総額1億円を目標に100万本の販売を目指している。阿蘇神社の宮司、阿蘇家に代々伝わる名刀『^{ほたるまる}蛍丸』の名を冠したサイダーは、蛍の光をイメージしており、その色はまさに淡い黄緑色。すっきりしたマスカットの風味が特徴で、「阿蘇・岡本」の通販サイトで販売を開始するやいなや3日間で500件、約5千本分の注文が全国から殺到。その後も神社の境内をはじめ門前町の商店や阿蘇市内の土産物店、道の駅などで販売が展開され、今年1月末までに約11万本を売り上げている。



『蛍丸サイダー』1本300円。阿蘇・岡本のホームページから購入可能。

その『蛍丸サイダー』11万本分の義援金1,100万円を、特産品開発会社「阿蘇・岡本」社長の岡本宗徳さんが、阿蘇神社に奉納。阿蘇神社の権禰宜の池浦秀隆さんは「皆さまの支援の輪の広がりを感じ、大変ありがたく思っております。義援金は、文化財の指定を受けていない社殿、主に

拝殿の復旧費に充当させていただきます」と、全国各地の人々からの温かい寄付に感謝の気持ちを伝えている。「熊本地震で当神社がほぼ全壊の被害を受けた情報が広がると、多くの皆さまからそれぞれの立場でさまざまなアイデアの支援のお申し出をいただきました。あらためて阿蘇神社が肥後国一の宮として認知されていることを実感しております。当神社の歴史性の一端が評価されているという意味においても、そのご支援をしっかりと受け止め、今後も復旧に取り組みんでいきたいと思っております」



倒壊前の阿蘇神社楼門

阿蘇地方の復興の象徴となるべく阿蘇神社の再建が進められる一方で、熊本地震からおよそ1年、テレビや新聞等のメディアで被災関連のニュースはほとんど取り上げられることがなくなり、時間の流れとともに人々の中で記憶の風化が進んでいるのも現状だ。「『蛍丸サイダー』による寄付総額1億円の目標を、各地神社のお祭りなどでの販売をはじめ、ツイッターやフェイスブックなどSNSでの拡散等を通じて、ともに協力、成し遂げていきたい」と「阿蘇・岡本」の岡本宗徳さんは語る。

有限会社 阿蘇・岡本
〒869-2301
熊本県阿蘇市内牧217
TEL: 0967-32-0035
<http://aso-sake.com/>

阿蘇神社
〒869-2612
熊本県阿蘇市一の宮町
宮地3083-1
TEL: 0967-22-0064
<http://asojinja.or.jp/>

『宿坊創生プロジェクト』第1弾 いよいよ宿泊開始

和空下寺町記者発表



記者会見の様子



天王寺区長 西山忠邦様

「和空 下寺町」は、株式会社和空プロジェクトが手掛ける「宿坊創生プロジェクト」の第1弾として、今年4月23日(日)にオープンする宿坊文化体験施設。お寺巡りや写経・写仏、坐禅、精進料理など宿坊ならではの文化体験を中心としたプランを用意し、3月11日(土)から宿泊予約の受付を開始した。

「和空 下寺町」は、株式会社和空プロジェクトが手掛ける「宿坊創生プロジェクト」の第1弾として、今年4月23日(日)にオープンする宿坊文化体験施設。お寺巡りや写経・写仏、坐禅、精進料理など宿坊ならではの文化体験を中心としたプランを用意し、3月11日(土)から宿泊予約の受付を開始した。

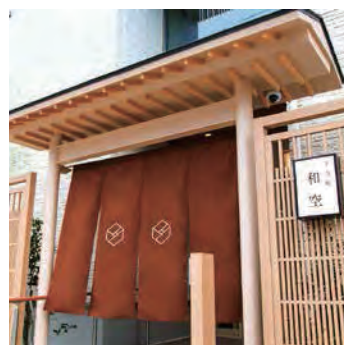
オープンの先立ち4月11日(火)に(株)和空プロジェクトによる記者発表が行われた(監修:一般社団法人全国寺社観光協会)



テープカットの様子

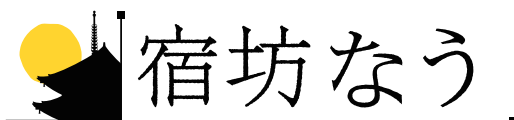


内覧会の様子



【お問い合わせ】株式会社和空プロジェクト TEL:06-4801-8211 <http://waqoo-pj.jp> 監修:一般社団法人 全国寺社観光協会

新テレビ番組 千葉テレビ



宿坊を中心に周辺スポットを紹介する旅番組

4月18日(火)23:30より放送中

「宿坊に泊まろう」が合い言葉。毎回、旅人が各地を訪ね歩き、その土地土地の宿坊にチェックイン。和の空間で日本の伝統文化や修行を体験して、明日への活力を見いだします。

監修協力:一般社団法人 全国寺社観光協会

四季巡り 華景色

岩^が船^ん寺^{せん}の紫^あ陽^じ花^{さい}



【岩船寺について】京都府木津川市加茂町岩船上ノ門43

宗派:真言律宗

山号:高雄山

寺号:岩船寺

創建年:729(天平元)年

撮影 原田 寛 鎌倉市在住。古都グラファーとして、日本全国の古都や歴史の街並みを中心に撮影活動を続けている。日本写真家協会会員。

本堂に十世紀半ばの阿弥陀如来像が安置されているほか、木造三重塔や石造十三重塔、五輪塔、石室不動明王など鎌倉時代から室町時代にかけての文化財が、国の重要文化財に指定されている。また「アジサイ寺」の別称で知られている。先代の住職が荒廃した境内地を美しく取り戻そうと植えたのが始まりという。植村幸雄現住職は「これからも参拝者の皆様に愛される『花の寺』を目標に、花を通じてたくさんの方たちの出会いを楽しみにしています」と述べられている。

寺社のみなさまのご要望にお応えして
広報活動をお手伝いします

プレスリリース(広報用資料)を 受け付けしています!

- 特別拝観や催し事(イベント含む)の開催
- 一般の方々に告知したい取り組み
- 他の寺社に告知したい取り組み
- 組織・人事の異動
- 新しい試み・事業
- 宿坊情報の掲載

など、貴寺社の情報を当協会までお送りください。

情報誌・ウェブ版「寺社Now」、
宿坊ポータルサイト「和空」、SNS、
関連ウェブメディアに記事が無償で掲載いたします!

なお、諸事情で掲載ができない場合もございます。あらかじめご了承ください。



ウェブ10万PV*
Facebook5万いいね!*

※グループ合計

プレスリリースの資料や写真を下記までお送りください

※当協会から確認のご連絡をする場合がございますので、ご担当者のお名前、電話番号などの連絡先を必ずご明記願います。



郵便・宅配便で送付

一般社団法人 全国寺社観光協会 本部事務局
〒530-0044 大阪市北区東天満1-11-13 9F TEL:06-6360-9838



e-mailで送信

info@jisya-kk.jp
※件名にプレスリリースとご明記ください

バックナンバーのご案内

寺社の「いま」を伝える情報誌「寺社Now」は、全国の寺社に無償でお届けしています。



vol.10

- ◆巻頭特集
建築物の耐震について考える
- ◆インタビュー
東北観光推進機構会長・
東日本旅客鉄道取締役会長
清野智



vol.11

- ◆巻頭特集
登録有形文化財建造物制度
- ◆クローズアップ
臨濟宗大本山天龍寺
塔頭 永明院 住職
國友憲昭



vol.12

- ◆巻頭特集
文化財保護と観光支援における助
成金と補助制度
- ◆クローズアップ
法相宗大本山 薬師寺 管主
村上太胤



vol.13

- ◆巻頭特集
MICE 誘致拡大に向けた社寺の取
り組み
- ◆インタビュー
河内國一之宮 杖岡神社 宮司
中東弘

バックナンバーはWEBでもご覧いただけます。

jisya-now.com または

寺社NOW

検索

本誌の記事に関するお問合せは
右記にお寄せください。

一般社団法人 全国寺社観光協会 本部事務局
〒530-0044 大阪市北区東天満1-11-13 9F
TEL : 06-6360-9838 FAX : 06-6360-9848 e-mail : info@jisya-kk.jp

次号は
7月発行の
予定です。

監修

一般社団法人 全日本寺社観光連盟

発行人

一般社団法人 全国寺社観光協会

編集・制作協力

株式会社 関西ばど

発行所

一般社団法人 全国寺社観光協会

(事務局)

〒530-0044
大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号
AXIS 南森町ビル 9F
Tel:06-6360-9838 Fax:06-6360-9848

寺社NOW

第1巻第14号 平成29年5月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権法で保護されています。
本誌の許諾なしに複写(コピー)したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載したりすることは違法となります。

より良い誌面作りのため、寺社の皆様の貴重なご意見をお聞かせください！

寺社Now 誌面アンケート

「寺社Now」ではより良い誌面をつくるために誌面についてのアンケートを実施しております。下記のアンケートの□内には✓を、()内にはご記入をいただき、下記まで本紙をファックスにてお送り願います。

Q1. 所属

寺院 神社

Q2. 今号で面白かった記事はどれですか(複数回答可) ※丸数字に○を記入

①特別対談企画:徳川家広氏×四天王寺 鼎談 ②編集企画:高齢化社会に備えて～ 寺社のバリアフリーを考える～ ③全国寺社イベント:浄土真宗本願寺派(西本願寺)「スクール・ナーランダ」 ④職人技:京都 有限会社 矢尾治 ⑤チャレンジ特集:沙沙貴神社 ⑥活性人:株式会社中外日報社 代表取締役社長 形山 俊彦 ⑦SCOPE:「社寺巡礼の旅」平成28年度観光庁採択事業 ⑧うちのお宝:成就寺 木造金剛力士立像/平清水八幡宮 木造獅子狛犬 ⑨集う、育む 体験レポート:葛木御歳神社『宮司による神道の講座 かながらのみちのお話』 ⑩寺社お役立ちデータ室:全国寺社数ランキング ⑪野田博明 風まかせ:「かぐや姫はなぜやってきたのか」 ⑫トレンドNow:阿蘇神社の復興を支援する「蜚丸サイダー」販売から8ヶ月間の売り上げの一部を同神社に奉納 ⑬特別連載③:和空下寺町記者発表 ⑭四季巡り 華景色:岩船寺の紫陽花

Q3. 以下の項目で、寺社の取り組みの事例として知りたいものはどれですか(複数回答可)

観光 外国人対応 宿坊新規開設・運営 寺社イベント 広報 地域振興 結婚式 後継者育成 土地活用
その他 (ご記入ください:)

Q4. 今号の記事、広告を見て実際に問い合わせた、もしくは興味を持った内容があれば教えてください。

広告を見て問い合わせた、あるいは興味を持ったところの会社・団体名:)

Q5. 以下の項目で、知りたい企業サービスはどれですか(複数回答可) ※丸数字に○を記入

①ホームページ ②SNS運用代行 ③アプリ開発 ④告知ツール制作(掲示物・ダイレクトメール・冊子・チラシなど)
⑤フリーWiFi ⑥自販機設置 ⑦喫煙所設置 ⑧清掃 ⑨老朽化・耐震対策 ⑩警備 ⑪保険 ⑫介護施設
⑬託児所 ⑭土地活用 ⑮資産運用 ⑯税金対策
⑰その他 (ご記入ください:)

Q6. 寺社Nowへのご要望・ご感想など

(ご記入ください:)

寺社Nowのバックナンバーおよび、寺社Nowの継続購読をご希望の場合は、下記の内容をご記入の上(□内✓をお願いします)、FAX送信してください。

<input type="checkbox"/> バックナンバー希望	ご希望のバックナンバーの号数に○をご記入ください ※複数可	<input type="checkbox"/> 継続購読希望
(Vol. 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13)		

寺社名		氏名	
ご住所	〒		
お電話番号			

< FAX >06-6360-9848

【個人情報の取り扱いについて】
ご記入いただいた個人情報は寺社Nowや同誌バックナンバーの発送および全国寺社観光協会からのご連絡以外には使用しません。



感動のそばに、いつも。



人をつなぐ、笑顔をつなぐ。
JTBは地球を舞台に、
あらゆる交流を創造し続けます。



挑戦の 数だけ、 保険が ある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a Good Company

東京海上日動



JOCゴールドパートナー (損害保険)